

# 政府の役割と 制度決定プロセスのあり方 — 幹細胞治療の場合 —

細胞再生医療シンポジウム  
2005.08.18 フォーシーズンズホテル椿山荘  
京都大学法学研究科 位田隆一

# 生命倫理における特殊性

1) 社会の基本的価値の存在＝前提

2) 対峙する価値観

＝基本的価値に関する各アクターのスタンス

3) 多数派と少数派の必然的存在

# 基本的価値＝疾病治療

①幹細胞の採取自体は人間の生命自体の問題ではない

しかし、採取及び応用における

リスクの存在

②幹細胞治療におけるリスクの重要性

救う命とリスクの比較

対峙する価値は相対的に小さい

# 制度策定プロセス

プロセスの透明性と民主的コントロール

議論の公開

ただし

- ①自由で生産的な議論の必要
- ②議論の効率と決定意思の強固
- ③国民への情報提供＝方法論の問題
- ④社会の側の議論に対する許容的理解

従来

メディアや社会からの批判に対して脆弱な面あり

⇔ 審議会とパブコメのみで決定するのがよい？

public involvement の効果的実現は？

# 審議会制度の功罪

- 功 ①さまざまな分野の専門家のバランスの取れた配置  
国民の意思を忖度するという擬制
- ②一定の方針の下での効率的運営  
多様な意見の集約と制度策定のスピード  
事務局の強力なサポート体制
- 罪 ①本当に国民の意思を代表しているか  
専門家の限界  
「規定路線」の批判
- ②日本人社会における議論の方法の問題
- ③コンセンサス形成の困難  
多数決による決定の受容度
- ④批判に耐えうる議論

# 政策決定の責任

タイムリーな制度策定

適切な制度

政策決定＝政治選択

民主的意思決定（多数決）

少数派の意見の存在をどう反映するか

# 制度の実効性確保

法によるか否か

遵守程度

⇒規範、制度は遵守されることが目的

法を作ること自体が目的ではない

＝法の策定が必要か？

Professional Community の実効性

一般社会の信頼度

国としての秩序安定

# 制度の運営と責任

医学・生命科学の発展のスピードとの関係

厳格かつフレキシブルな運営

規範と審査制度の妥当性の検証

適用状況の調査

現場からの具体的な問題の指摘

と解決策の提案

タイムリーな改訂作業

# 国民の理解と受容の確保

## 国の役割

国が管理することのプラスとマイナス

質の統一と安全性確保

国のコントロールに対する反発

⇒国でなければできないこと

国以外のアクターがやるべきこと

## 学会の役割

現場の医師、研究者の役割

患者・家族の役割

企業その他の役割